

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

映像制作に興味があり、いくつかの大学のオープンキャンパスに行ったのであり、同志社女子大学ではメディアについて様々な分野から学べると知り志望校に決めました。また、スタジオの設備やパソコンの貸し出し等も魅力的と感じました。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

とにかく授業を基本にしました。周りの人がまだ受験モードではなかったのがなるべく早く対策に取りかかりました。演習では毎回丸つけと見直しをしっかりと、定期テストの点数も上げられるようにしました。部活もまだ引退していなかったため、この頃は家よりも学校での勉強が中心でした。

〔夏休み〕

文化祭の有志の準備で時間がない中塾に通っていました。英語は文法が苦手だったので、一からさらって少しでもわからないことや疑問に思うことがあれば塾の先生に細かく聞いていました。国語は古典の勉強ができていなかったため、文法や単語の暗記を中心にやりました。夏休み後半からの過去問を解き始めました。

〔2学期～入試直前〕

1学期と同様に授業を大切にしていました。たくさん勉強したはずなのに知らないことがたくさん出てきて焦りましたが、授業の中で覚えるようにしていました。知らない単語が出てきたら電子辞書ですぐに調べ、わからない問題は解説をじっくり読みました。朝や休み時間は友達と英単語の問題を出しあって、お互い教えあいなどもしました。塾ではひたすの過去問と解説をくり返し、問題形式に慣れることを意識しました。受験の一週間前に他校の入試があり、形式を変えるのが思ったより大変でした。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

文化祭の有志の練習で9月頃は全く勉強ができませんでした。終わってからなかなか手につかず、元の生活に戻るのに時間がかかってしまいました。何もやる気が出ないときは、とりあえず動画授業を再生してみるなど、徐々にモードを切り換えるようにしていました。スマートフォンが手放せないときは、いつもアプリで単語を簡単に学習する方法が私には向いていました。さらに、勉強時間を記録するアプリを使って目標を設定すると達成感が得られるし、友達と競い合うこともできるので楽しかったです。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

周りのみんなより時期が早く、なかなか授業が頭に入って来なかったりもしましたが早く始めれば終わってからが楽なので周りに流されず頑張ってください。過去問、毎回合格点を上回っていたとしても入試当日は本当にギリギリでした。本番は普段の8割程度しか出せないと思ってください。